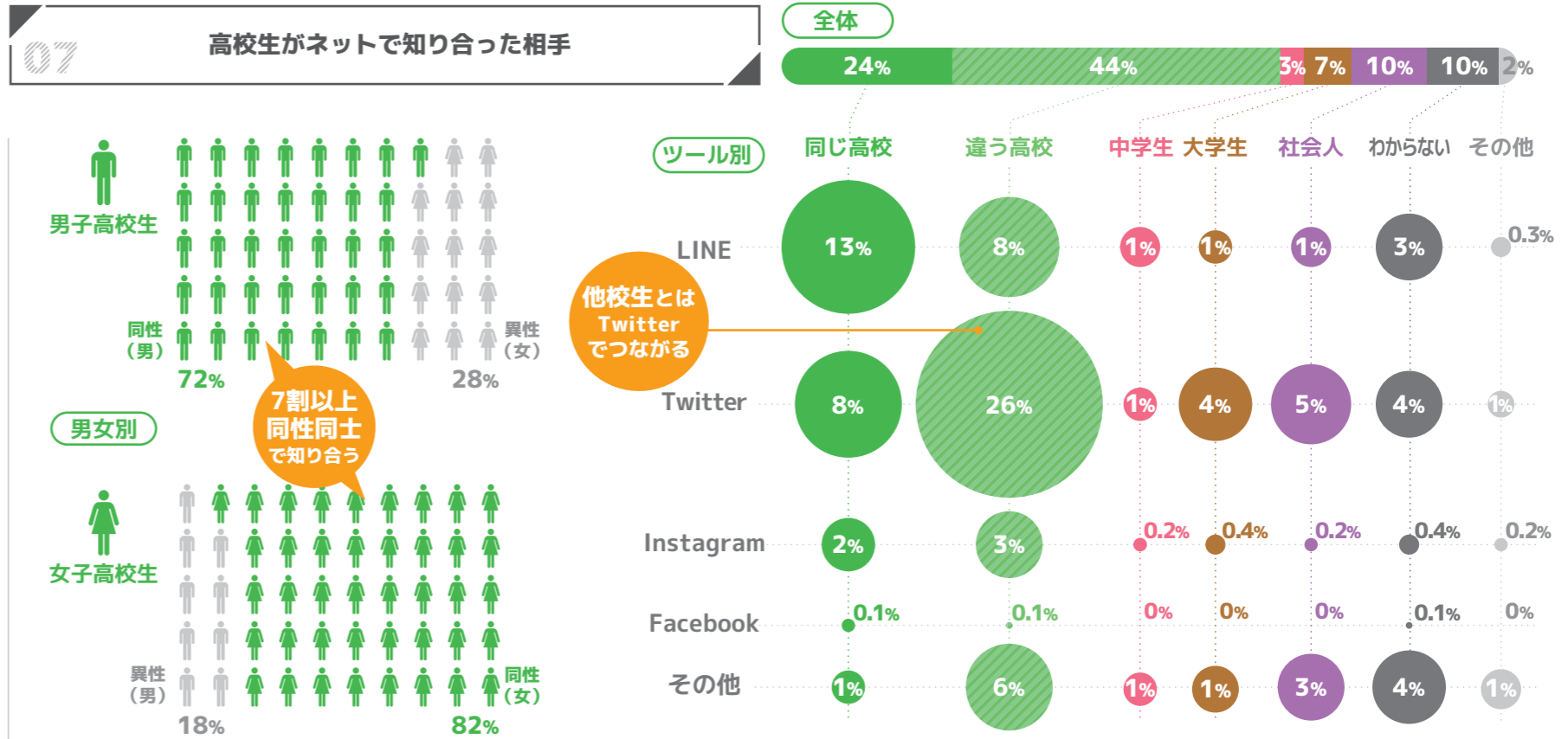
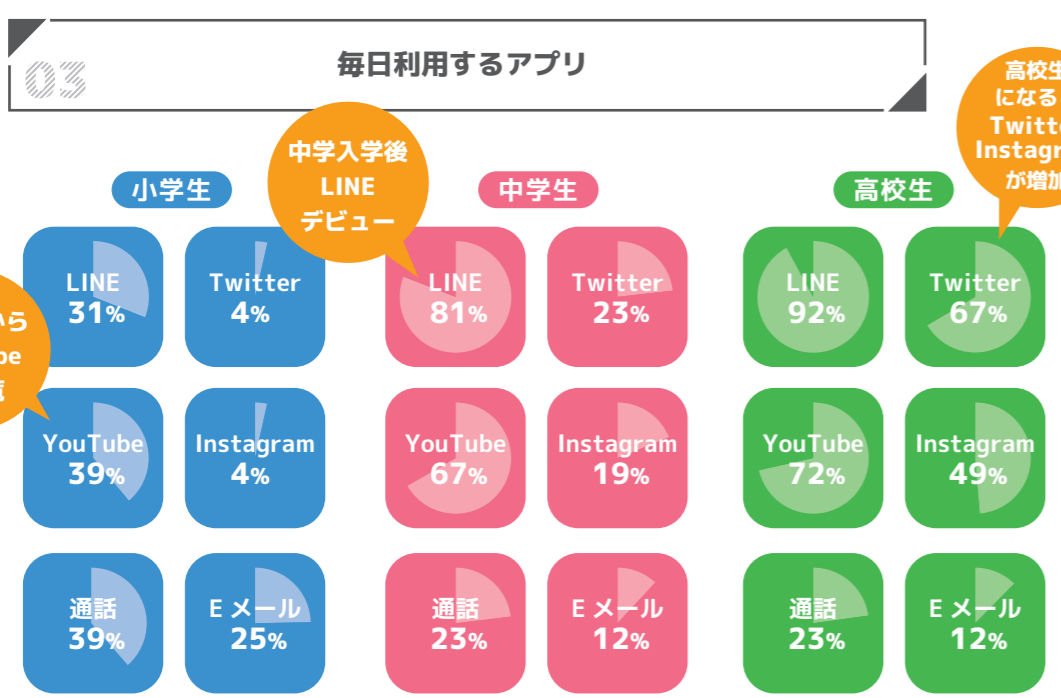
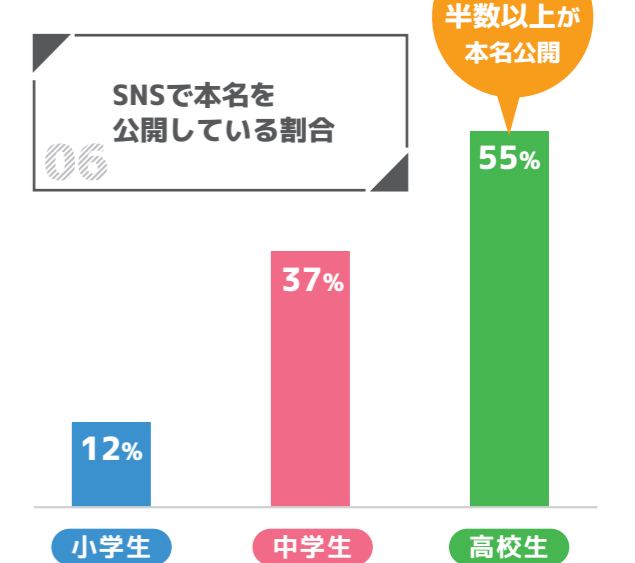
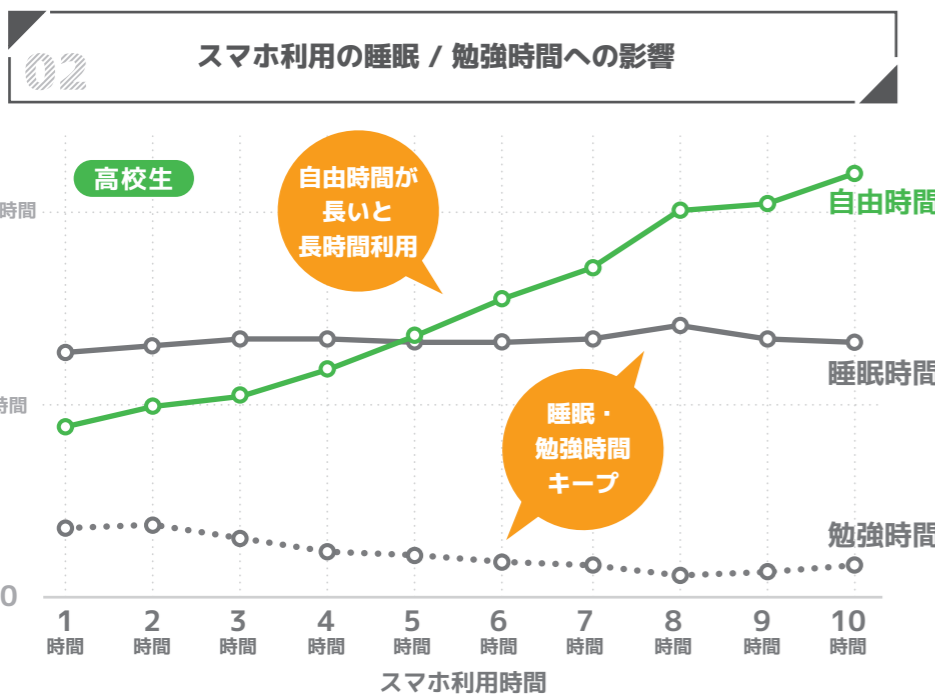
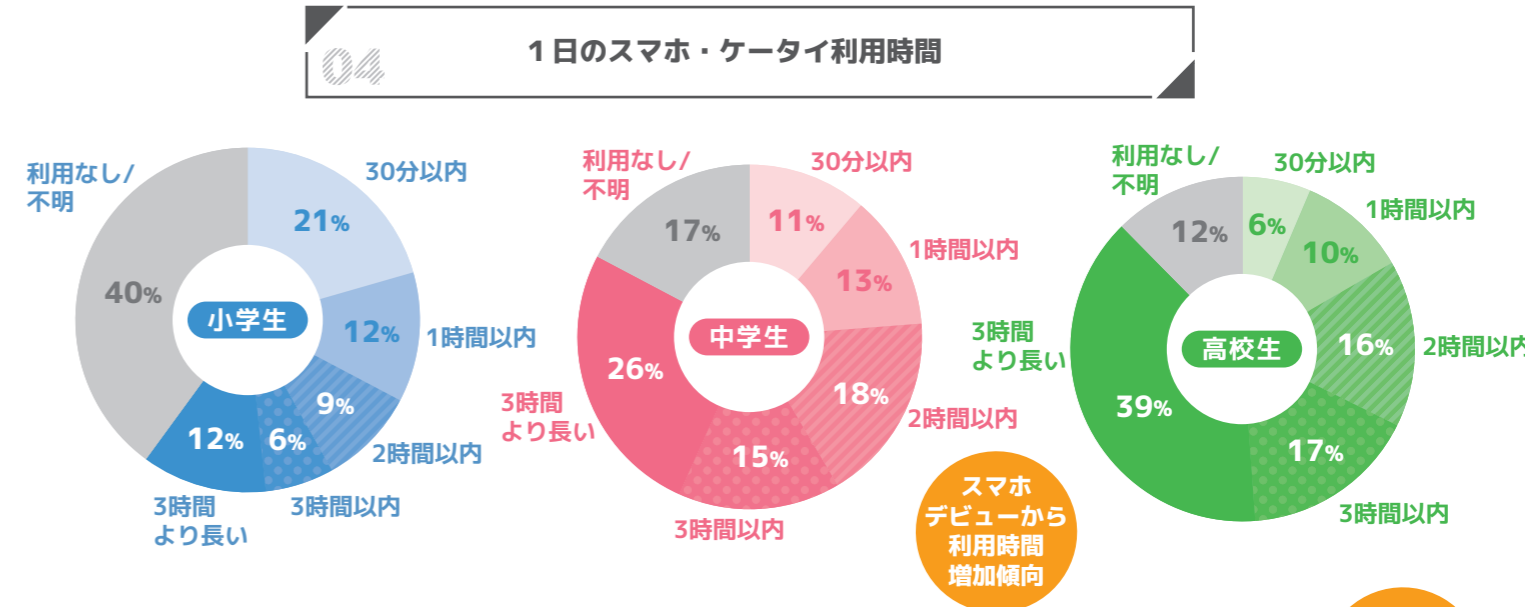
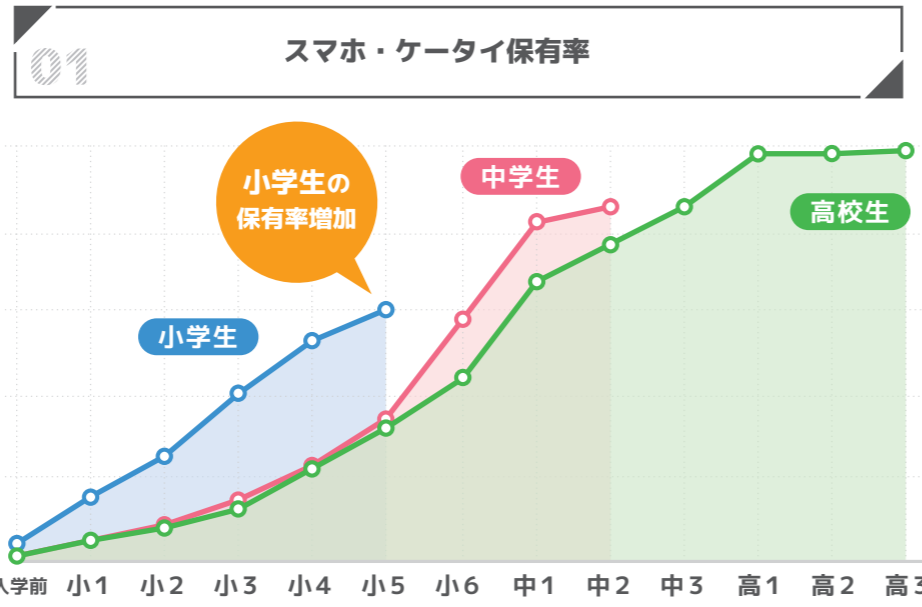


ネットとの付き合い方

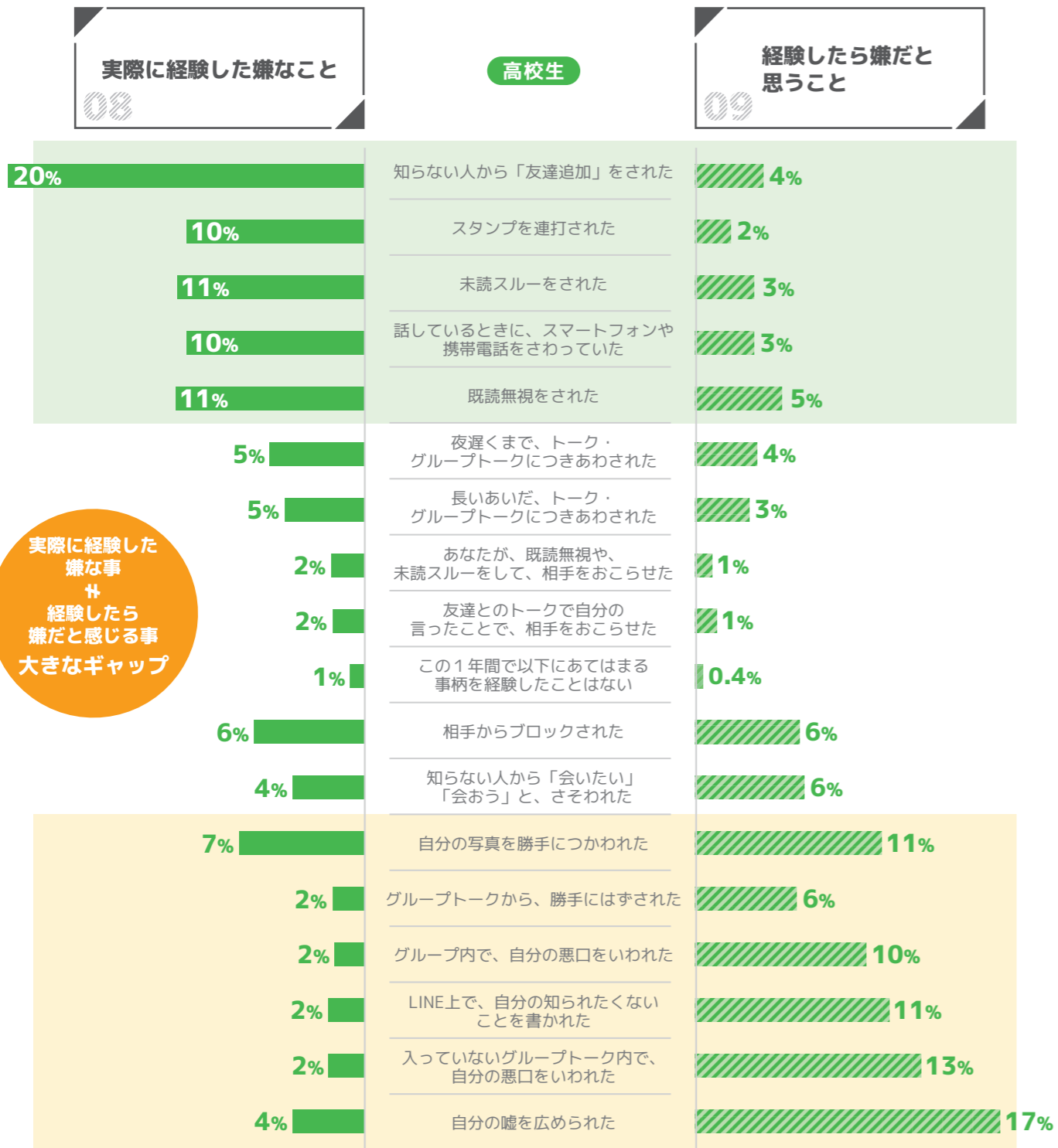
青少年のネット利用実態調査

平成30年度
LINE株式会社

1 ネット利用実態概観

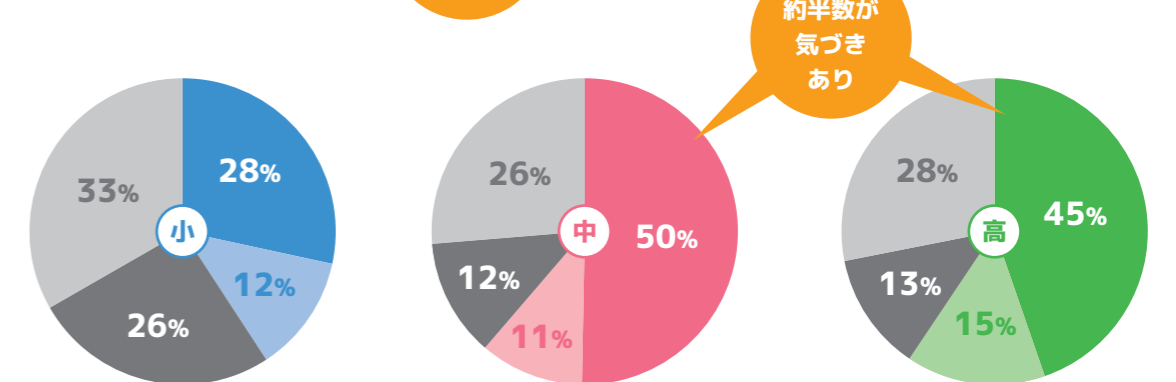
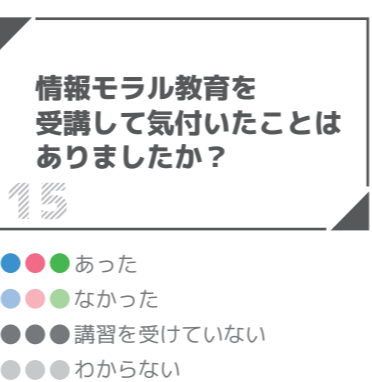
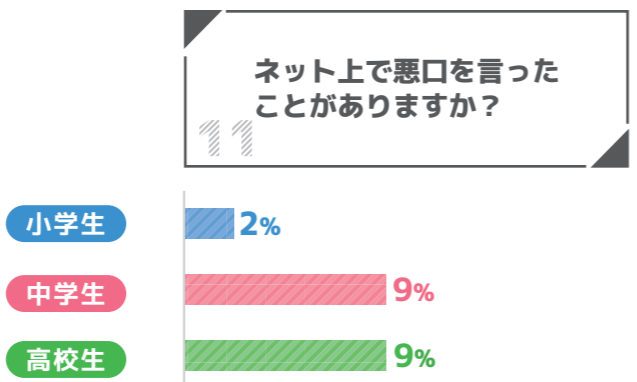
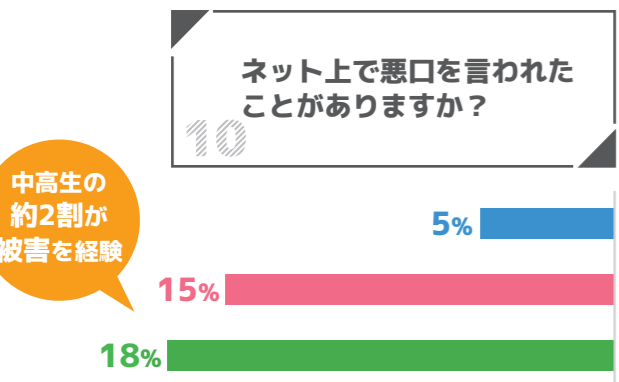
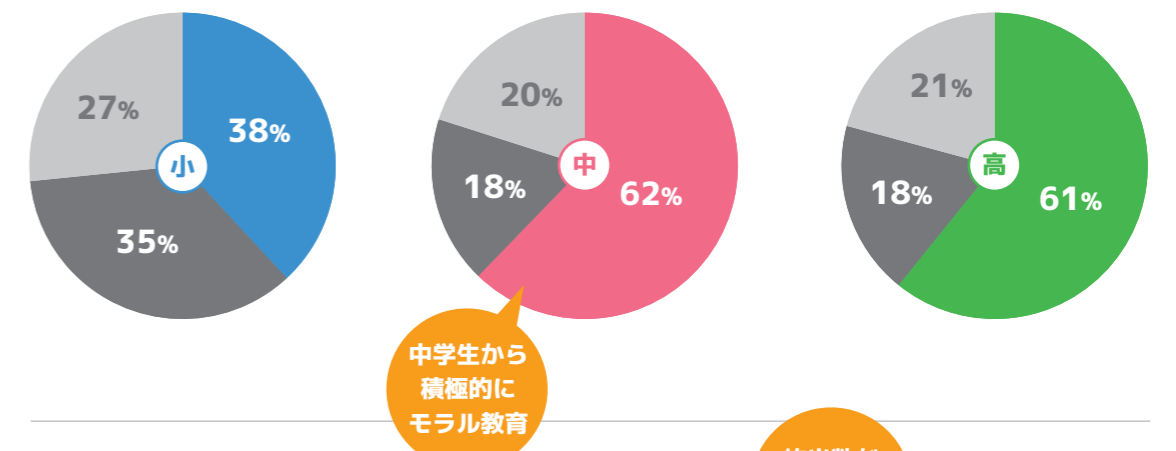
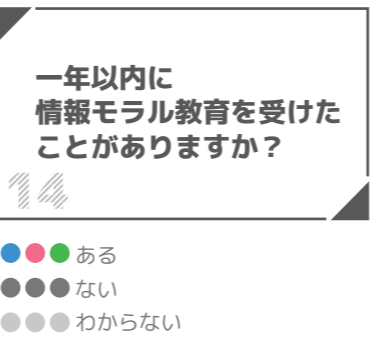
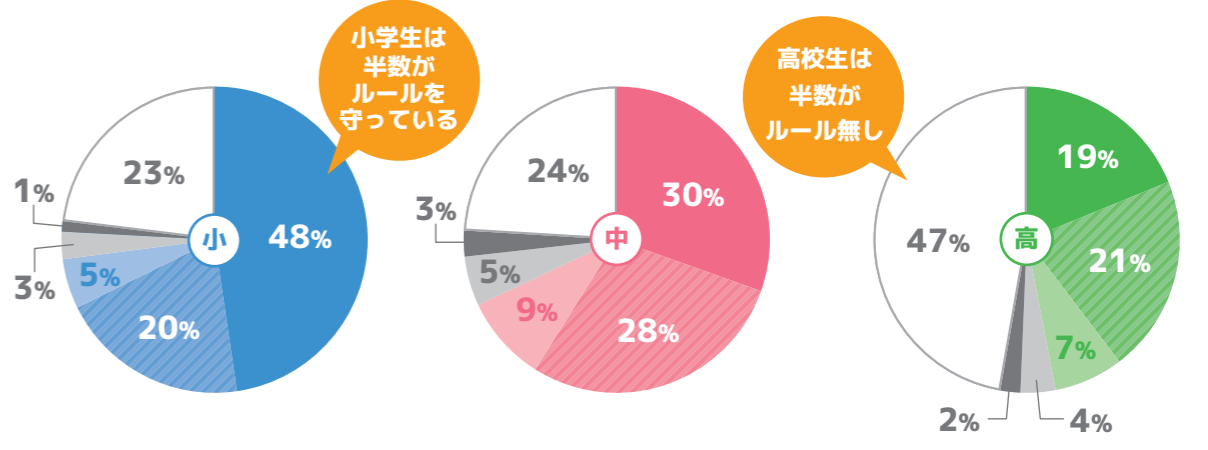
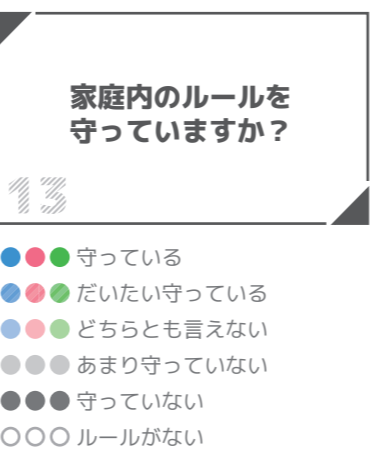
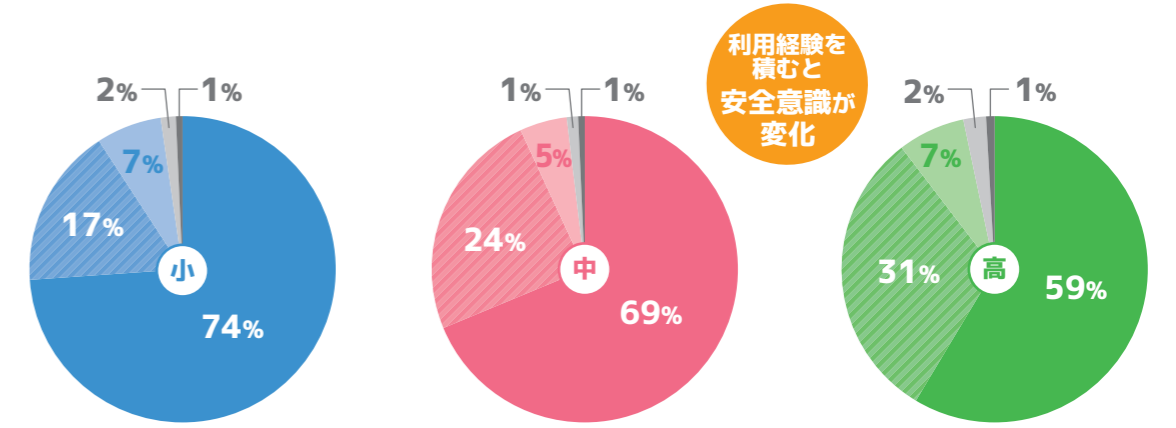
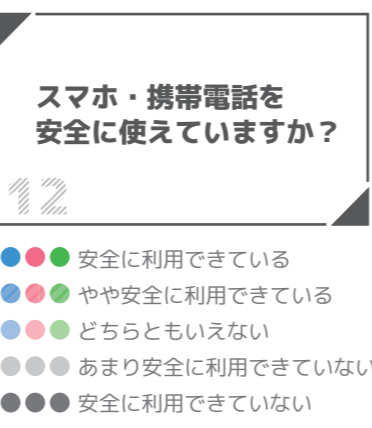


2 LINEで実際に経験した嫌なこと、嫌だと感じること



実際に経験した嫌な事
+
経験したら嫌だと感じる事
大きなギャップ

3 安全対策の実施状況



4

ネット長時間利用の影響と要因

考察

本調査では、スマートフォン等の小学生の所持率が増加するなかで、小学生でも約12%が1日の利用時間を3時間以上と回答しています。

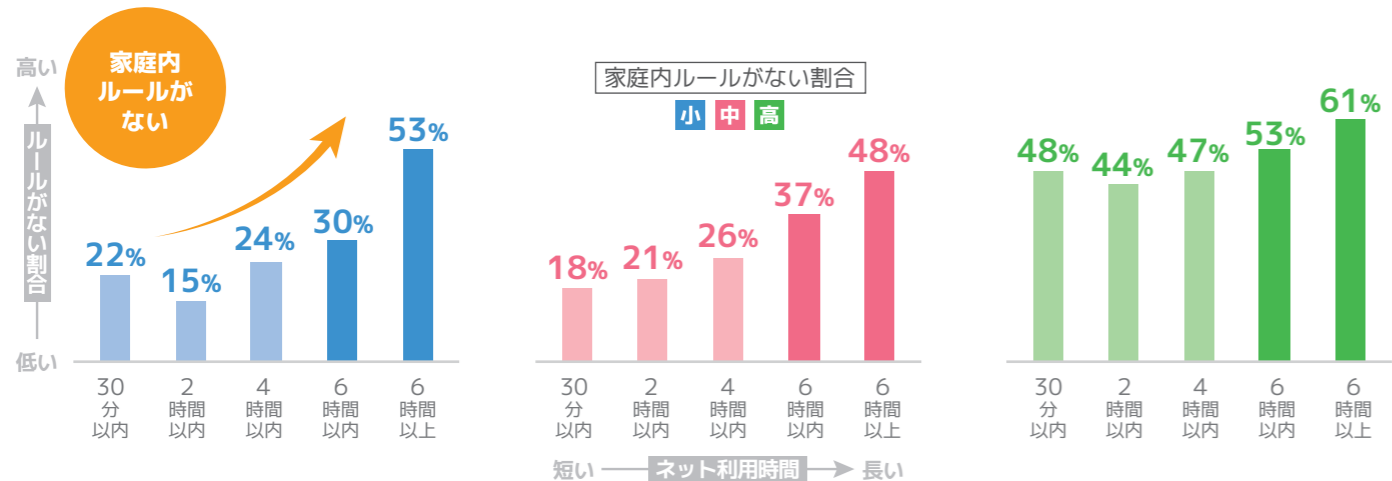
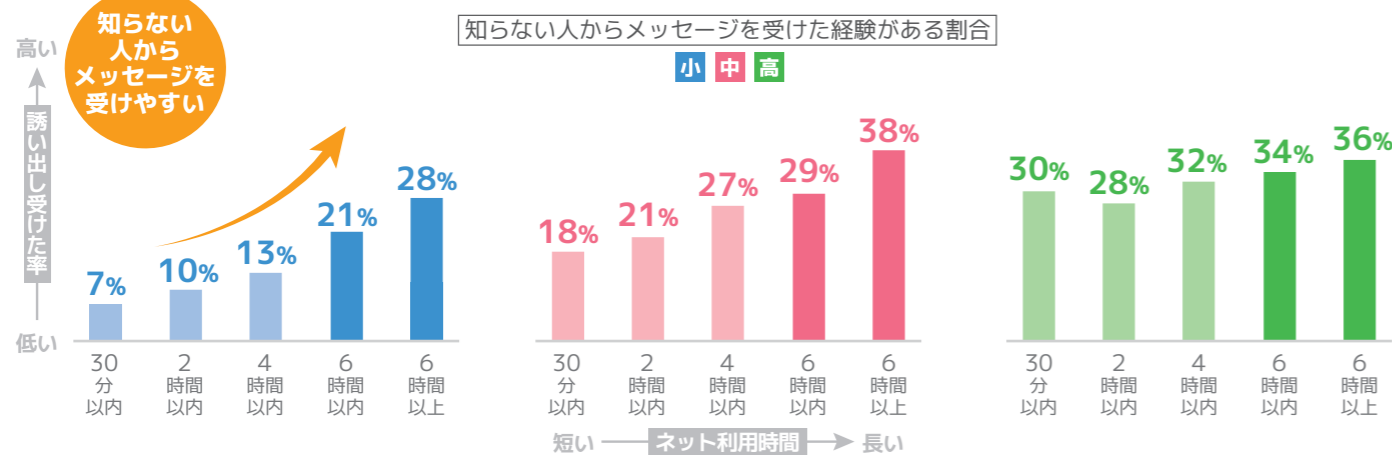
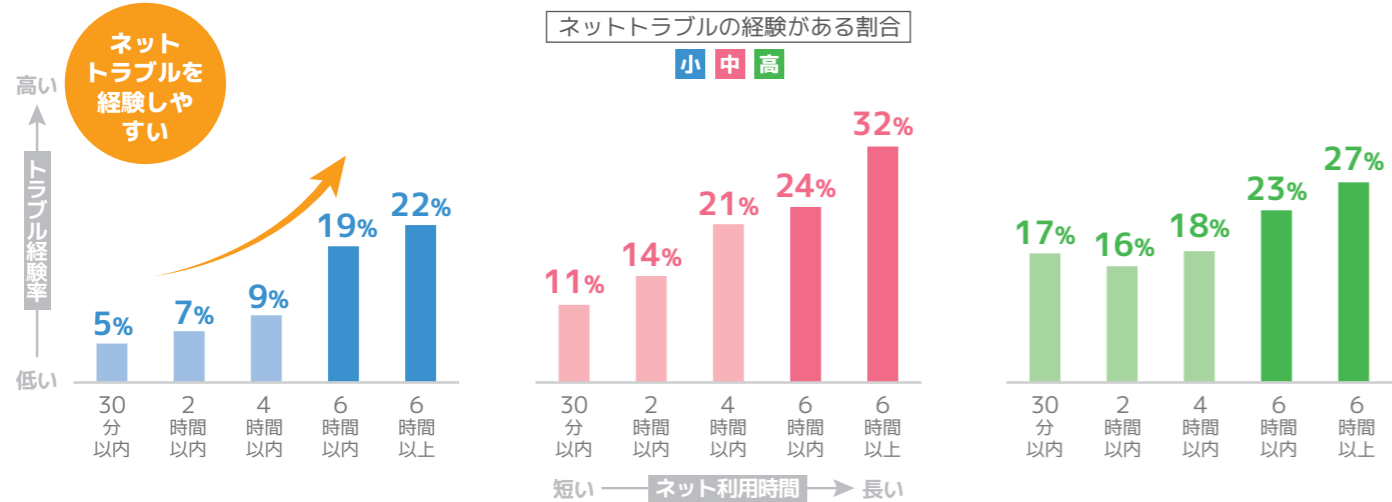
利用時間が長ければトラブルを経験する可能性は高まることが本調査でも示されましたが、利用時間が長い生徒は自由に使える時間も長い傾向にあることがわかりました。

自由に使える時間の有効な過ごし方のひとつとしてスマートフォン等の利用について家族で話し合うことが必要といえるでしょう。

※ネット上のコミュニケーションに関する悪口や暴力表現といったトラブルをネットトラブルと総称します。

16

ネットを長時間使っている人の多くは…



5

ネットトラブルなどの背景と要因

考察

本調査では、ネットトラブルの被害経験の頻度が高いと加害経験の頻度が高いことがわかりました。

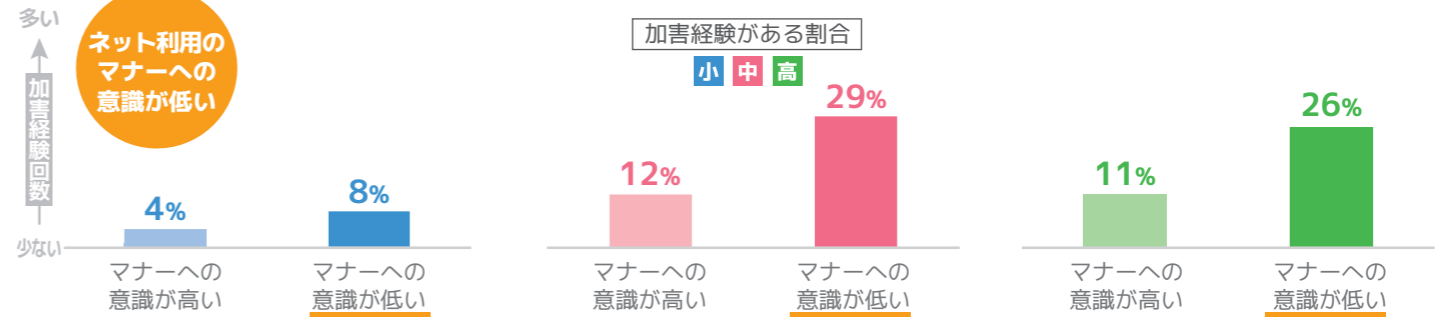
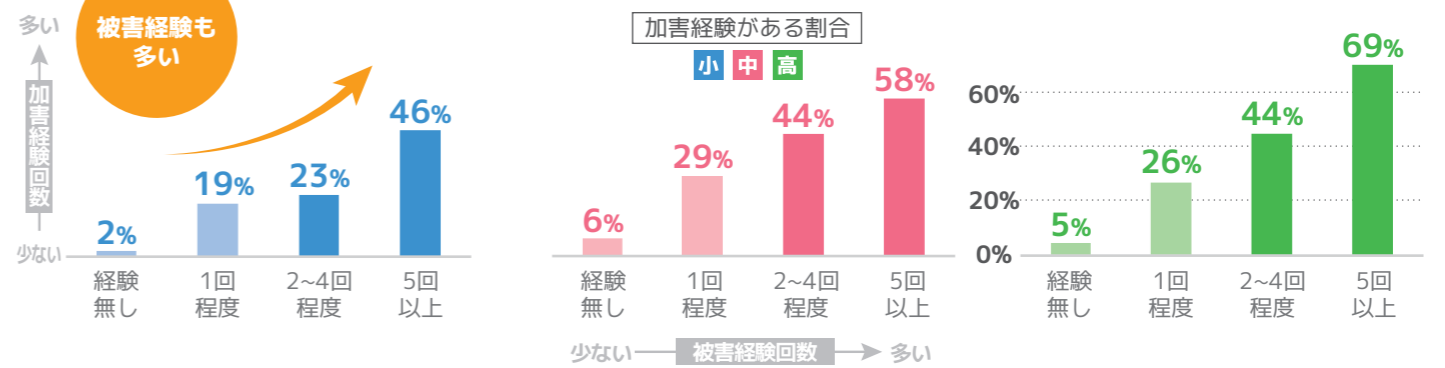
また、被害経験と加害経験の割合では、中高生だと約10%ほど被害経験率が多くなりました。

こうしたことは遠隔のやりとりとなるネットコミュニケーションの特性も要因となっている可能性があります。

子どもたちがリアルとは異なるネット特有の性質を理解し、想像力を働かせながらネット利用ができることが重要といえるでしょう。

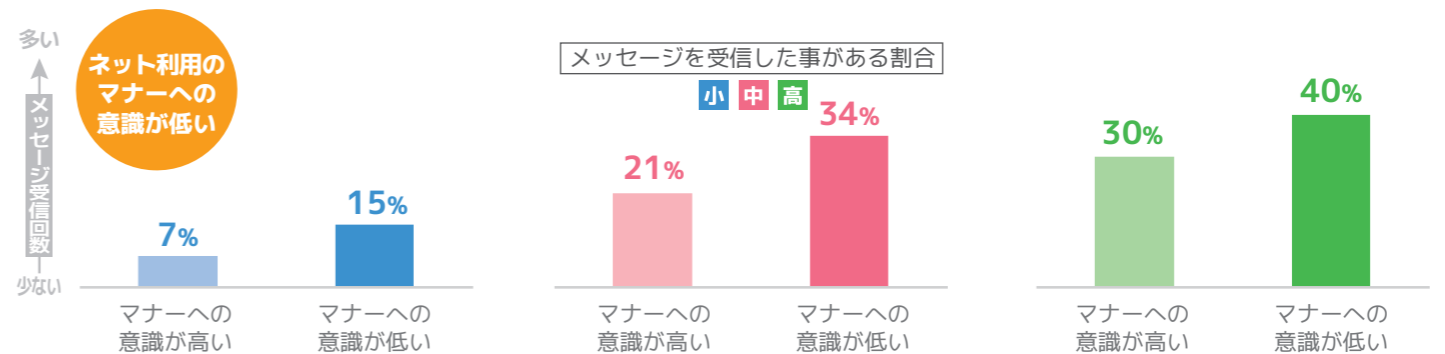
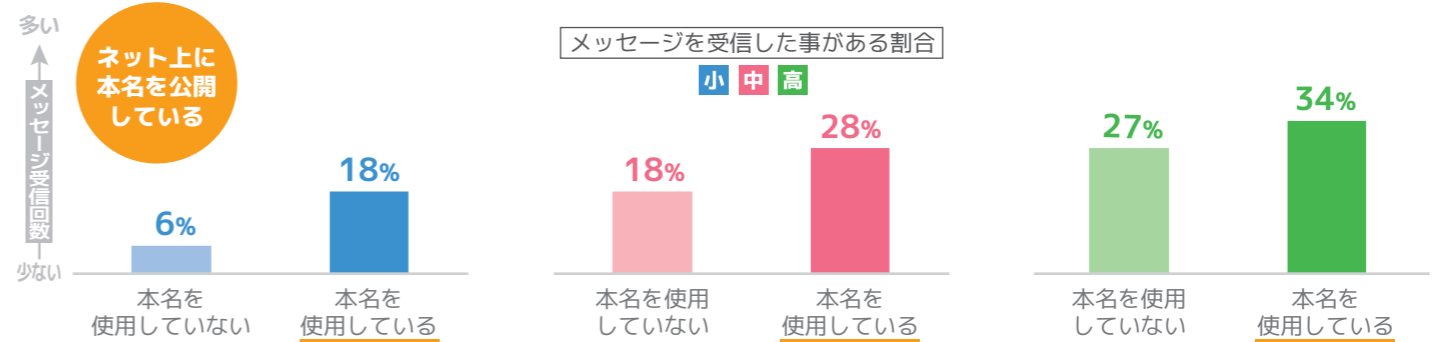
17

悪口などの暴力表現の加害経験の多い人は…



18

知らない人からメッセージが来る人の多くは…

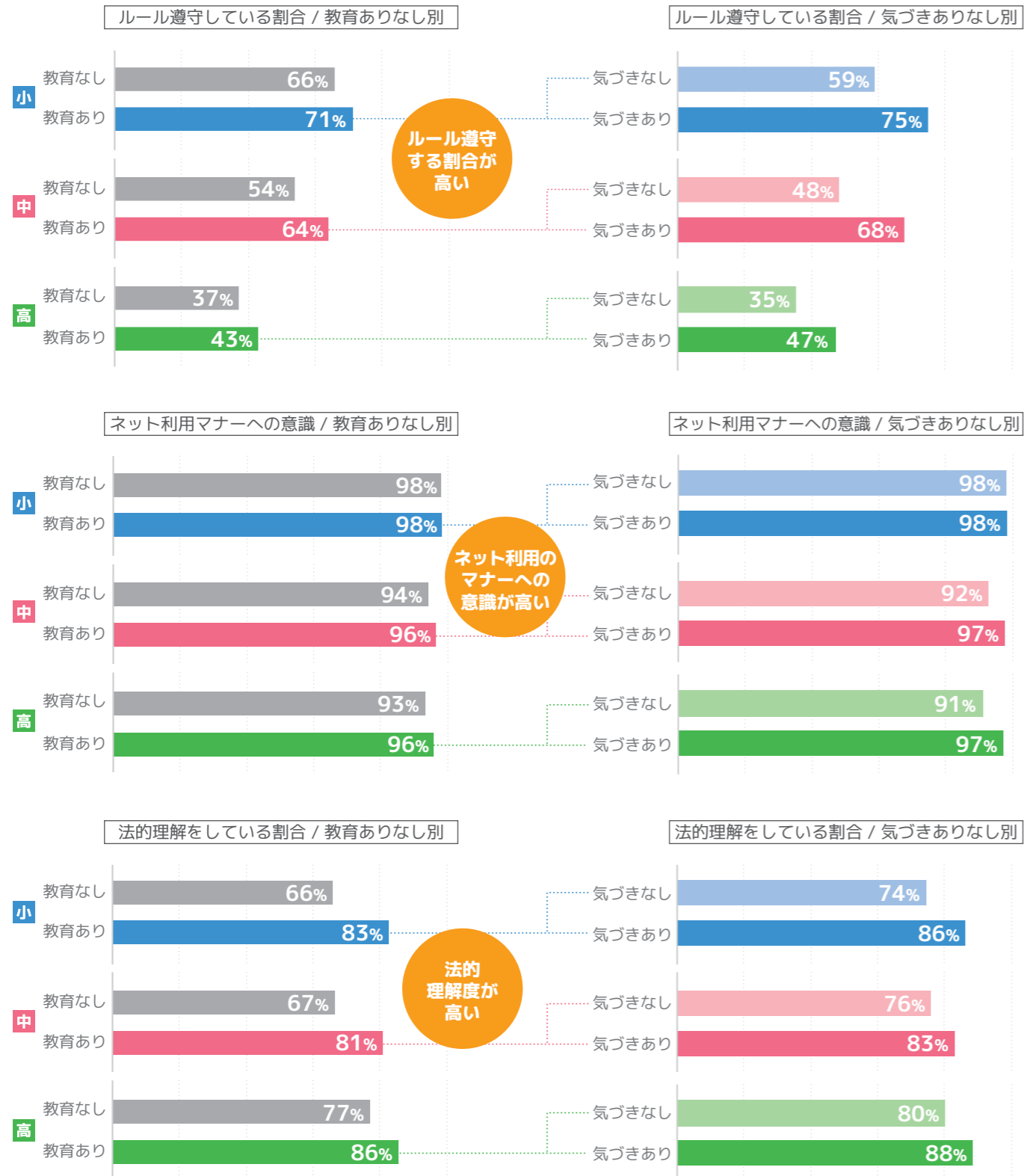


情報モラル教育の効果

考察 本調査では、情報モラル教育の経験や気づきが、ルールの遵守やマナー意識、法的理解度の向上につながる事が判明し、ネットトラブルの抑制に一定の役割を果たしていると考えられます。
 その一方で、ネットトラブルの被害・加害の抑制に直接結びつく結果が出なかったことを考慮すると、行動改善を促すための情報モラル教育の内容や手法を導き出すことが今後の検討課題と考えられます。
 ※法的理解度：ネット上での悪口やいやがらせ行為における違法性の認識度

19

情報モラル教育を受講した子供は…



家庭内ルールの遵守と効果

考察 本調査では、家庭内のルールを守る児童・生徒はネットトラブルの被害・加害経験や知らない人からのメッセージの受信経験、長時間利用傾向が低いことがわかりました。また、家庭内のルールを守るとする割合はルールを家庭内で話し合っただけで決めたほうが、保護者が一方的に決めることや、自分で考えて決めることよりも高いことがわかっています。
 家庭内でのネット利用に関するコミュニケーションがネットトラブル抑制には重要であることを示唆する結果となりました。

20

家庭内ルールを守っている子供は…

